国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム '97.7

◎特 集 「第9回世界青年の船」
IYEO全国大会

vol. 17

㈶青少年国際交流推進センター

第9回世界青年の船

出航式

壮行会において各国ナショナルリーダー代表から決意表明を受ける武藤総務庁長 ▶

表敬

◀ 橋本内閣総理大臣を表敬訪問

〔1／20〕日本（東京）～ニュー・ジーランド（オークランド）～チリ（バルパライソ）～コスタ・リカ（カルデラ）～メキシコ（アカプルコ）～アメリカ（ハワイ）～日本（東京）〔3／21〕

「世界青年の船」は、北・中・南米方面と南西アジア・アフリカ等方面を隔年で訪問しています。第9回は、前者のコースでした。外国青年は、1月11日に来日して日本でのプログラムを体験した後、出発前研修で日本青年と合流しました。1月20日、「にっぽん丸」は、日本と訪問地である4か国を含む13か国の青年約300名を乗せて東京港を出航し、船内では、講義、ディスカッション、グループ活動等が行われました。各寄港地では、表敬訪問、施設見学、交流活動等が実施されました。また、ニュー・ジーランドでは「世界青年の船」で初めてのホームステイが実施され、参加青年に大変喜ばれました。

事前研修

「世界青年の船」への参加は事前研修から始まった（8月）◀

▲ Peace seminar を行う為、参加を呼びかける（自主活動）

船内活動

▲ 武道クラブが登場（エキシビションデー）

踊りを披露するメキシコ参加青年
▼（ナショナル・プレゼンテーションデイ）

◀ 渡辺船長による太平洋の民族や歴史についてのセミナー

訪問国活動

▲ 鼻をくっつけ合ってマオリの人と挨拶をする
（ニュー・ジーランド）

大江戸助六太鼓を披露する
▼（チリでのレセプション）

▼ 既参加青年が港で出迎えてくれた（コスタ・リカ）

▲ サンティアゴ市長と握手をする鎌田管理官
（コスタ・リカ）

修了式

代表スピーチをするオーストラリアの
◀ ナショナル・リーダー（修了式）

私にとっての世界青年の船

「第9回世界青年の船」参加青年（広島県）
峠　恭雄

大切な友人、少し豊かになった表情、そしてちょっぴり大きくなったお腹、等々。これは、私が世界青年の船で得たものです。

「第9回世界青年の船」に参加するにあたり、私にはいくつか心に決めた事がありました。その一つが、恒例になりつつある船内での自主活動としての「ピースセミナー」をやり遂げる事です。広島参加青年がスタッフを募り、夏の事前研修以降準備を進めてきました。船内では、嬉しいことに数名のOPY（外国参加青年）もスタッフとして協力してくれました。

▲ 平和の絵をバックに（筆者 中央）

船内では2回のセミナーを開催し、1回目は「貴方にとって平和とは」というテーマで、ディスカッションを中心に行いました。また、子供達の「平和の絵」の展示も行いました。平和と一言で言っても、国によってはもちろん、同じ国でも人によって様々な違いがみられました。きっと平和について考える時も、人によっていろいろな意見がでてくると思います。その違いを認識することを、最初の目的としました。

2回目は、広島からのプレゼンテーションということで、原爆についての説明やビデオ上映を中心に行いました。結構有名な映像を用いたのですが、初めての人が多く、特に中南米の参加青年にはショックだったようで、私達の予想以上にヒロシマについて知られていませんでした。決して結

主な内容

「第9回世界青年の船」より……5〜6
アカプルコ　リユニオン……7
「第9回世界青年の船」課題別視察……8
全国大会とその歴史……9〜11
特別対談　笹島　誉行……12〜13
中国訪問体験……14〜15
国際交流担当者紹介……16〜17
地方プログラム受入（予定一覧）……18
青少年国際理解セミナー（予定）……19
ブロック大会の開催について……20

〈表紙の説明〉
「第8回世界青年の船」
〜上岡弘二団長 写真展〜
"青春群像'96"の作品より
＊向かって左からタンザニア
スリランカ、日本の団員

論を求めるのではなく、「知らなかった」を「知って良かった」と思ってもらうように取り組みました。

世界青年の船への関わり方は、人によって様々です。自分がどのように関わるかによって得るものも変わってきます。

私の場合、「ピースセミナー」に始まり「ピースセミナー」に終わった気がします。自分でもう少し肩の力を抜いて、船を楽しむ余裕が欲しかったと反省しています。今後も、世界青年の船で得たものを持ち続けていきたいと思っています。（お腹は別です！）

国際人とは？

（筆者 前列）

「第9回世界青年の船」参加青年（大阪）
本橋　桃子

人もの違った文化背景をもつ人達との共同生活の中で判ったことは、常に自分をしっかり持っている人でないと通用しまいということだった。
やればやるだけ跳ね返ってくる手応えを感じた。

真の国際人とは、語学力などのスキルではなく、自分を表現する手段を持っている人のことをいうのではないだろうか。大きな発見をしたと感じている。

「世界青年の船」は言わば小さなコミュニティで、その中の誰にも社会的な役割がある。私は、グループのため、世界青年の船のために自分が何ができるかを考えた。幸運にもアシスタントユースリーダーという役割を与えられ、また自主的に琉球舞踊、エイサ、アカペラを企画し、他の人が作った別の活動にも積極的に参加していった。

楽しいからやる、しかも社会的に貢献している、というボランティア精神を学んだ。そして、300

ラテンの風に吹かれて～「世界青年の船」アカプルコリユニオン

日本青年国際交流機構事務局次長
椿　景子

涙の別れから2年。久しぶりに訪れたアカプルコは、変わらず明るく暑かった。空路で半日以上かけてメキシコ入りした後に飲むライムをキュッとしぼったコロナビールは格別に美味しかった。

さて今回の目的は、「第9回世界青年の船」の最終寄港地で開催される「世界青年の船」第2回既参加青年代表者会議（東廻りコース）への参加である。今年のリユニオンは開催案内を東・西全員に送付したため、参加希望の声は多かった。東西顔合わせの良き場になるのではと期待されたが、ビザや渡航費の問題で西側からの参加者はインドからの1名のみとなってしまった。両航路の参加者が顔を合わす絶好の機会だっただけに残念だが、定員内でおさまったために船内宿泊が全員可能になったことは、幸いであった。

3月2日。午前8時に着岸との話を聞いていたので、船を出迎えるために7時半に港へ到着。にっぽん丸はすでに着岸体制に入っていた。そして岸壁にはたくさんの第7回生の懐かしい顔が勢ぞろい。聞けば昨夜は徹夜で盛り上がっていたとか。2年ぶりの再会で名前と顔はいまいちはっきり一致しないけれど、一緒に船の上にいたことだけは覚えている。

3月3日。午後から受付を開始し、ドルフィンホールでミーティングを始めた。ここでは各国同窓会が担うべき役割や、10周年記念事業について活発な意見交換がなされた。どの国も同窓会の存在意義を認めながらも、一体これから何をしていけば良いのか模索中といった状況が感じ取れた。いろいろアイデアを持ちながらも、具体的に実行できずにいる苛立ちも見受けられた。

確かに世界各国に点在している事後活動組織をつないでいくことは並大抵のことではなく、時として焦燥感や無力感を覚えてしまう時もある。これまでは、「同窓会設立」ということに満足し、一つの段階にたどり着いたという達成感もあった。しかし、これからはもう1歩進んだレベル、すなわちそれぞれの同窓会を基盤に何をするのか、具体的に何ができるのかを考えなければいけない時期に来たようだ。

会議の後は、現役青年は船外でプログラムがあったため、既参加青年だけの夕食会となり、渡辺船長も同席してくださった。懐かしいダイニングルームで、きっといつも食事をしていた席に彼らは座り、久しぶりに再会した仲間と楽しい一時を過ごしたに違いない。

わずか2日間という時間ではあったけれど、今回既参加青年たちの会議に参加したことで、彼らの船に対する情熱が不変であることを改めて知った。「第9回世界青年の船」がアカプルコを出航する時、この港で下船するラテンＰＹの別れを惜しむ姿を、冷静にしかし温かく見守る既参加青年たちの表情を見ながら、私は何か頼もしさを彼らに感じ、「事後活動組織」の成長が期待できるような気がした。

「第９回世界青年の船」課題別視察

～日本国内でも気軽に国際交流ができる！～

「第９回世界青年の船」参加外国青年の日本国内プログラムの一つとして、東京において１月13日（月）に課題別視察を実施しました。

外国青年には、事前にアンケートで希望訪問先を取り、それに基づいてコースを割り振りました。

約60名の日本側の実行委員は、約１か月半前から自分の興味のある訪問コースを選び、その分野の情報収集にあたります。また、初めて日本に来た外国人の方が、楽しく食事ができるようなレストランを探したり、その日の午後、簡単な東京散策ができるようなコースを組むなどの準備をして当日を迎えました。

このプログラムでは、外国青年は、自分の足で歩いて、日本の様々な様子を見学することが出来ます。実行委員は、思いがけない外国青年の質問を受けることもあり、自分の住む街を客観的に見る機会を得られたようです。そしてなによりも、世界12か国から来日した外国青年と仲良くなれ、今まで名前しか聞いたことがなかったような国にも興味を持つようになるよい機会となりました。

課題別視察コース一覧

1．深川江戸資料館
2．明治神宮
3．浅　　草
4．国際交流基金
5．東京ガス㈱　ガスの科学館
6．東京都中央卸売市場
7．アサヒビール東京工場
8．東京証券取引所
9．全日本空輸㈱　機体メンテナンスセンター
10．ＴＢＳ　ＴＶスタジオ
11．ロイター通信社訪問及び記者との懇談会
12．国会見学
13．世田谷区立世田谷福祉作業所
14．新宿区立落合第二小学校
15．本所防災館

◀ロイター通信社にて見学と記者との懇談

日本青年国際交流機構第12回全国大会宮崎大会

～太陽とのふれあい、そして自然との語りあい～

（日　時：平成8年11月30日（土）～12月1日（日）
場　所：宮崎フェニックス「シーガイア」　サンホテル フェニクッス）

～感動的な講演会～　テーマ：「自然に学ぶ」

講師：三戸サツエ先生（幸島自然苑）

幸島のサルは、島流しにあった美しいお姫様の召使いとしてやって来たという伝説があるため、人々から大変大事にされてきました。

三戸先生が「幸島のサル」の研究に携わることになったきっかけや外国から訪れる研究者との触れ合い、幸島のサルの個性豊かな様子を示す数々のエピソードを大変力強い口調で話されました。「幸島のサル」の人間と変わらぬ子供に対する愛情や権力争いのエピソードに思わず微笑んでしまったり、目頭が熱くなったりしました。

～充実した報告会～

(1)　インド国際子供村「ハッピーバリー」
（事務局8名による報告）

第16回青年の船に乗船した大神のりえ氏（宮崎県青年国際交流機構会員）がインドのデカン高原に、子供たちのための国際村「ハッピーバリー」を建設しました。当初は様々な苦労があったようですが、現在は毎年、多くの子供たちが「ハッピーバリー」で交流を行っています。

(2)　国際交流事業参加者の帰国報告会

- 「第8回世界青年の船」参加者による報告
- 平成7年度国際青年育成交流事業
  ブラジル派遣団の田辺美加さんによる報告

～盛り上がった懇談会～

「宮崎の文化を楽しんでいただこう！」と沢山の趣向を凝らしました。また、日程を調整しておいで下さった江藤隆美元総務庁長官よりご挨拶をいただきました。

① 神楽、② 太鼓、③ 宮崎の方言
④ 演奏（今神楽バンドによる）
⑤ ひょっとこ（宮崎ひょっとこ「わかめ組」）

感　想

正直言って良くできたものだと思う。実行委員のバイタリティに驚いています。様々な職域で活躍されている専門分野の力を出し合い、特に看板、出版印刷については感心しました。

私にとって、この全国大会は、今後の事後活動を含め、「青年の船」ってなんだったのだろうと考えさせられた大会でした。「船」を降りてあっという間に10年過ぎてしまった気がしますが、その時の団員に会い帰国報告を聞いていると、10年前にタイムスリップするようで不思議な気がしてきました。人それぞれの事後活動があっていいと思います。そして、こういう機会に、同じ経験をしたもの同士が一つになることは、素晴らしいと思いました。　（実行委員　日高国弘）

青少年国際交流事業事後活動推進大会・日本青年国際交流機構全国大会実施状況

回数	年度	場所	大会テーマ／主な内容
第1回	昭和60年度 (1985年) 9／7～8	茨城県つくば市 (国際協力事業団 筑波インターナショナルセンター)	「国際青年年を記念して」 講演：「国際交流における青年の役割」 講師：宮崎　緑氏（NHKニュースキャスター） パネルディスカッション、懇親会、会務報告他
第2回	昭和61年度 (1986年) 11／22～23	大阪府吹田市 (アサヒビール工場) (国立民族学博物館)	「ひとりひとりが考え、ともに行動するために」 パネルディスカッション「中国帰国者定住問題」他 講演：「民族学と国際交流」 講師：国立民族学博物館助教授　端　信行氏
第3回	昭和62年度 (1987年) 10／24～25	愛知県名古屋市 (名古屋栄東急イン) (日土地名古屋ビル16階)	「みつめよう・語りあおう・そして考えよう」 ボイスフォーラム：「ホームステイを考える」 司会者：西澤信正氏（東海テレビ放送ニュースキャスター） 帰国報告、活動報告他
第4回	昭和63年度 (1988年) 11／5～6	岩手県盛岡市 (愛真館)	「われら　先達たらん」 講演：「日本人の国際交流をめぐって」 講師：岩手大学教授　岡本雅美氏・活動事例報告他
第5回	平成元年度 (1989年) 11／4～5	愛媛県松山市 (道後プリンスホテル)	「新時代、BIGに語り行動するために」 講演：「夢をつかみとる人生」 講師：万代恒雄氏 ブロック別活動事例報告
第6回	平成2年度 (1990年)	神奈川県横浜市 (横浜市教育文化センター・ インターナショナルプラザホテル)	「あなたと世界の交差点、そんなヨコハマ物語」 パネルディスカッション：「アジアにおける日本の国際」 パネリスト：(日本へ留学中の方々含め7人) 研究協議、情報交換
第7回	平成3年度 (1991年) 11／16～17	大分県大分市 (大分第一ホテル) (くれべ大分)	「先んじて21世紀」 ジンポジウム：「故郷作りと国際交流」 パネリスト：工藤俊郎　山香町長、一瀬茂亀　弥生町長 (2方とも既参加青年)
第8回	平成4年度 (1992年) 11／21～22	福井県福井市 (福井県繊協ビル) (福井ワシントンホテル) (福井県民会館)	「大陸王国　地球ファミリー」 講演：「日本て　へんな　国」～サンコンの見た日本と日本人～ 講師：オスマンサンコン氏（ギニア友好協会広報官） 福井の自然と文化の紹介他
第9回	平成5年度 (1993年) 11／20～21	島根県松江市 (ホテル一幡)	「楽しめ異文化コミュニケーション'93「違い」は、あなたと私の財産だ！」 講演：「楽しめ異文化コミュニケーション」 講師：櫻井よし子氏 手作り演劇「久美子のホームステイ日記」他
第10回	平成6年度 (1994年) 8／6～7	東京都 (商船三井客船「ふじ丸」船上) (東京→名古屋を航海)	講演：「ボランティア活動について」 講師：坂本昇一氏（千葉大学名誉教授） アジアのこども絵画展 「第20回東南アジア青年の船」記念記録映画「輝きの海」上映、帰国報告他

第11回	平成7年度 (1995年) 12／2～3	大阪府大阪市 (三井アーバンホテル 大阪ベイタワー)	であい　ふれあい　かたりあい「今、この時代をともに生きる」 Here & Now For Withness 講演：「国際化時代のネットワークづくり～アムネステイ活動と私の生き方～」 講師：イーディス・ハンソン氏（アムネスティインターナショナル日本支部長） フォーラム：「共にあることから、今、第一歩を」
第12回	平成8年度 (1996年) 11/30～12/1	宮崎県宮崎市 (宮崎フェニックス シーガイア／サンホテル フェニックス)	「太陽とのふれあい、そして自然とのかたりあい」―Mの国での再発見― 講演：「自然に学ぶ」 講師：水戸サツエ氏 特別企画：パネル展、インターネットコーナー、団服の展示、写真展

注）第10回（平成6年度）以降、講演会については青少年国際交流全国フォーラムとして㈶青少年国際交流推進センターと共催

青少年国際交流事業事後活動推進大会

日本青年国際交流機構第13回全国大会

第4回青少年国際交流全国フォーラム

in FUKUSHIMA

1．主　　催　　総務庁青少年対策本部　㈶青少年国際交流推進センター　日本青年国際交流機構
船と翼の会ふくしま

2．期　　日　　11月29日（土）～11月30日（日）

3．会　　場　　Ｊヴィレッジ（福島県広野町、楢葉町）

4．参加費　　会　員　12,000円（宿泊、懇親会、朝食含む）／小中学生　9,000円
非宿泊　9,000円／小学生未満　無　料（ベット未使用の場合、朝食は実費）

5．申込方法　　次回のマクロコズムに同封される振込用紙に必要事項を記載のうえ参加費をお振り込み下さい。

6．プログラム　　国際交流パネル展／物産展／各事業の報告／小講演会＆トーク＆トーク／懇談会
全国ＰＫ大会（Ｊヴィレッジサッカーコートにて）

船上パーティのお知らせ

東南アジア青年の船の出航日前日、恒例のリユニオン・パーティを開催予定

エスニック料理にアセアン音楽、ダンス。そして楽しい会話。「にっぽん丸」でのひとときをご家族友人の皆さんとお楽しみ下さい。会員でない方でも楽しめます。詳細は、次号にて。

日時：9月21日（日）18時～21時　　会場：東京港晴海埠頭「にっぽん丸」船上

特別企画「この人に聞きました」

▲「第23回東南アジア青年の船」シンガポール出航式にて

海は、国と国を結ぶ役目

～笹島流　国際交流のススメ～

内閣総理大臣官房参事官
（「第８回世界青年の船」　　管理官
「第23回東南アジア青年の船」管理官）
笹島　誉行

Q.「世界青年の船」「東南アジア青年の船」の両事業に乗船されたわけですが、それぞれの違いについて感じたことはありましたか。

A．世界船に乗った後に、東ア船に乗船しましたが、東ア船に乗った時に強く感じたのは「アジア人の船」だけに考え方や行動様式、そして心理的に「近い」ということ。確かに世界船にもバングラデッシュ、スリランカという南西アジアからの青年が乗船していたけれど、東アの方が文化的にも日本との連続性を感じたし、その文化を日常的に共有し、そして経済的にも進歩した国同士としてのパートナー意識というのがあったように感じました。

一方世界船というのは、東ア船に比べて、心理的なスタートラインが遠い地点から事業が始まるような感じを受けます。国数のバラエティや認識ギャップ、また各国の選考や研修内容の違いから、ＰＹも管理部も本当に理解し合える仲間なのだろうかという気持ちでスタートする。そしていろんな摩擦を経験しながら、ようやくコミュニティーが出来上がっていく面白さというのが、世界船の醍醐味だと思うし、これは体験しないとわからないですね。

もちろん両者にはプログラムの組み立て方そのものにも違いがあって、世界船の場合は船上生活が長い分、船内でのルール作りやメンバーの合意形成に勢力が傾けられる。東ア船は寄港地主体型のため、そこまでの理屈や議論は要求されないし、そんな時間もないわけです。

どちらが良いというのではなく、言ってみれば、「Friendliness の洪水の東ア船」と「Diversity の極致の世界船」とでも表現できるのかもしれませんね。

Q．どういう青年に事業に参加してほしいと思いますか。

A．近年の参加青年は英語力も上がってきていて、ある意味でとても優秀な人材が多いと思います。ただ、逆に粒が揃いすぎて画一的になってしまうのもおもしろさに欠けてしまう気がする。特に青

年の船事業というのは地で勝負する場なので、その人の「持ち味」があるというのは良いですよね。周りに流されずに、自分らしさをポジティブに表現できる人。こういう人は、このバラエティに富んだ船社会の構成員として貢献してくれるだろうし、また、日本人のいろんな良さを自然にアピールしてくれると思います。

Q. 事業に参加してご自身が学ばれたことは？

A. 英語のスピーチが上手くなったことかな（笑）。それから船長にもいろいろ教えていただきましたね。船長が船客と和やかに食事をしていれば、船客も安心するし、逆にあれこれ指示を出したり、追及しているような場面を船客に見せてしまうと不安になってしまうでしょう。そういう意味では、生身の人間を扱う、それこそ生死をも預かる現場のマネージメントについては良い勉強になったと思います。

あと、やはり海はいいですね。これは海洋国家日本が行うに相応しい事業だと思いますね。特に最近の事業参加国というのは、基本的に海でつながっています。海が国と国を隔てるのではなく、国と国を結ぶ役目を担っていると思うんですよ。これを自分が実際に船に乗って実感するのは良い経験でしたね。

そして、あのような船上コミュニティーという異次元空間での体験だからこそ、短時間で長く続く人間関係が出来上がると思いますね。1年分、2年分のつきあいを、2か月という時間で凝縮して行うわけですから。

その証として、これまでネットワーク作りが難しいとされてきた世界船も、東西両コースに基盤ができて動きはじめようとしている。まさに飛躍の時期と言えますね。これは一つに各国の既参加者の人数が増えてきたこともあるし、それに伴って、事業での経験を活かし続けたいという機運がいよいよ高まってきたという気がします。

▲ 水天宮の事務所でインタヴューを終えて

Q. 事後活動に期待することは？

A. 事業が終わって迎える別れの瞬間というのは本当に辛いものですよね。でもその悲しい別れは1回でも、再会の喜びは無限にあると思うんです。ネットワークの基礎にはこれがあると思います。参加事業が違っても、人の輪が広がり、再会の喜びを味わえるというのが事後活動の醍醐味と言えるでしょうね。私自身も、総務庁青少年対策本部からは離れても、事後活動には積極的に参加していきたいと思っています。

笹島誉行氏のプロフィール

笹島誉行（ささじま たかゆき）

1956年11月15日生　O型　茨城県出身
東京大学理学部卒業。1980年総理府入省。
1985年～87年英国ロンドンへ子連れ留学。
LSE（London School of Economics）にて経済学修士取得。
1995年7月～1997年6月総務庁青少年対策本部国際交流調査官、参事官として在任。
1996年「第8回世界青年の船」「第23回東南アジア青年の船」に管理官として乗船。
特技：早食い　　趣味：飛ばすだけの車とゴルフ
自慢：既にASEAN 10か国を訪問したこと

第16回日中青年親善交流事業の渉外団員として参加した井上昌子さんが、事業への参加経験と自分自身の数多くの中国訪問体験を基に著書を出版しました。今回、その一部で日中青年親善交流の最後の日程の体験を書いた部分を抜粋して紹介します。皆さんもぜひ書店で手に取ってみて下さい。

「中国にいこうよ」～不思議の国へのパスポート

井上　昌子

元気の素　中国（中国に行きたい）

中国訪問を終えて、私はすっかり元気になっていた。モンゴルでもらった漢方薬が効いたのか、体調も良かったし、訪中前に感じていた通訳としての不安も、どこかへ飛んで行ってしまった。実力不足は努力で補える、私から中国を取ったら何も残らない、それがわかっただけで十分だった。

中国の何がそんなに私を元気にするのか。それは、いつ行っても、頑張っている魅力的な人に会えるから、心豊かに暮らす中国人がいるから、かもしれない。物質的には日本の方が豊かかもしれないし、「これは日本を見習った方がいいんじゃない？」と思う部分も確かにあるけれど、でも、中国の方が日本よりいいところ、日本人の私が羨ましく思うところ、見習いたいと思うところがたくさんあるのだ。

武漢で、私たちを接待してくれた職員の中に、祝さんという30代半ばの女性がいた。彼女にはまだ小さい子供がいるが、男性職員と同じように勤務していた。急に訪問先が増えたりして、連日夜十時過ぎまでかかったのに、ずっと私たちに付いてくれていた。

「きのうも今日もこんなに遅くなってしまって、お子さんはどうしてるんですか？」

「夫が見てるわ」

「ふたりとも残業、なんてことはありませんか？」

「そうねえ、私も夫も、残業はあんまりないけど」

「もし残業が重なったら、お子さんはどうしてるんですか？」

「同居してる私の父に見てもらったり、親戚や近所の人に頼んだり……。姉が5分ぐらいのところに住んでるの。みんな、二つ返事で引き受けてくれて、助かるわ」

「お子さんがもっと小さいときから、ずっとこんな感じですか？」

「三歳までは保母を雇ってたの」

保母はここ数年の間にはやり出した。農村の職がない若い女の子を都会の働く女性が住み込みで雇い、家事や子供のめんどうを見てもらうのである。特に保母の資格を持っているわけではなく、お手伝いさん、といった感じである。

中国は以前から男女共働きの国である。その分子供の保育所が発達していて、夜間も含め一週間子供を預けっぱなしにし、週末だけ家に帰る「全託」という制度もあるくらいだ。それが最近保母を雇うようになったのは、乳児が定員オーバーで保育所に入れなかったり、保育所の集団の中に入れるよりは家で子供を見たい、と考える親が増えてきたためらしい。

「保母を雇う費用はどれくらい？」
「今はどうなのかしらねえ……、月に50、60、いえ、80元（約960円）くらい払うかしら。住み込みだから食べさせて、寝る所を用意して、ときどき服も買ってあげるの。それに、年に1、2回、帰省する費用をだしてあげることもあるわ」
「日本じゃ、二重保育で保育料が母親の収入より高くなってしまった、なんて話があるけど、中国で保母にかかる費用は、母親の給料の何％くらい？」
「そうね……、6分の1から8分の1くらいかしら」

なんとうらやましい。保母の費用が安いということは、それだけ農村の子が安く使われているということで、それはそれで問題だけれど、それにしても、日本で子育てをする母親より楽そうに見えるのはなぜだろう。やはり「夫の残業が少なくて、育児参加ができる」せいだろうか。

上海で、国際部長のショウさんと話をした。彼は給料のうち3分の1が住居及び光熱費、3分の1が食費、残りの3分の1は遊びに使えるという。
「遊ぶって言ったって、仕事が忙しいからね。普段はためといて、夏休みとか、数ヶ月に一度旅行に行ったり、だね」

ちなみに私が東京で一人暮らしをしていた時は、住居及び光熱費が給料の60％、食費が25％、その他が15％だった。非常に禁欲的な生活だったことを覚えている。
「中国は週休二日制？」
「週休一日半だな。隔週で土曜日が休みになる」
「勤務時間は？」
「仕事によって違うけど、公務員で9時から5時半」
「祝日は？」
「元旦と旧正月とメーデーと……一年に12日かな」
「自由に休める有給休暇は？」
「勤続5年で10日、勤続10年で15日」
「病気で休む時は、やっぱり有休を使うの？」
「病気は診断書があれば病気休暇をして休める」
「病気休暇は給料を減らされない」
「公務員は大丈夫。工場なんかでは、病休があんまり多くなると給料やボーナスからひかれるけど」
「いいなあ。日本では病気のとき有休を使うから、体が弱い人は遊べない」
「なんだよ、そりゃないぜ！」

以前、香港の友人も、「病気は病気、休暇は休暇、病気の時には病休があって、有休は遊びのためにある」言っていたけれども、こんな話を聞くにつけ、本当に豊かなのはどちらなんだろう、と思ってしまう。

私は時々、中国人の豊かな生活が本気でうらやましくなる。そして、そんな中国人の生活に少しでも染まりたくて、豊かな心に触れたくて、また中国に行きたくなってしまうのだ。

（発行所：東洋出版㈱　TEL 03－5261－1004）

青少年対策本部国際交流事業担当係紹介

すっかり恒例になりました、総務庁青少年対策本部の国際交流事業担当者の紹介コーナーです。今回は、全ての担当係を一挙に紹介させていただきます。4月に大異動がありメンバーが代わりました。全国大会、ブロック大会等で顔を合わせたり、何かとお世話になるメンバーですので、全国の皆さんも是非覚えて下さいね。

6月2日現在で、お伝えさせていただきます。本号が発行されます時点では、一部異動されている方もあるかもしれません。

笹島国際交流担当参事官：国際交流班の責任者。「第8回世界青年の船」と「第23回東南アジア青年の船」管理官として乗船。在任中に国際交流にはまってしまい、スピーチは今や楽しみの域に。内閣総理大臣官房参事官との兼務は、さすがに大変そうですが、笹島参事官が去った交流班はちょっぴりさみしくなるかな？

渡邊調査官：「第24回東南アジア青年の船」管理官として、この秋に乗船予定。オーストラリア大使館での在任中に「世界青年の船」の受入れに尽力されたとのことで、実は昨年の着任前から縁があった方でした。

総務庁青少年対策本部国際交流振興係

国際交流班の要となる係。様々な連絡調整や都道府県主管課とのやりとり、事後活動に関することは全てこの係にお世話になります。私たち事業既参加者が最も直接的にめんどうをみてもらう担当係です。

井上国際交流振興担当補佐：すっかりお馴染みになり、最も長くお世話になった方。今春めでたくご結婚され、一層優しげになりました。でも、仕事の際はなかなか厳しく……。

竹中国際交流振興係長：昨年の「国際青年育成交流」事業でインドネシア副団長として事業参加。彼のボソと厳しい一言がでたときは、IYEO大橋事務局長がもっとも恐れる瞬間。でも最も頼りにしている人。

中川国際交流振興係員：「第9回世界青年の船」管理部員として乗船。厳しい管理部の仕事をやり遂げ、振興係でも細かい仕事をしっかり頑張ってくれています。

米山国際交流振興係員：「第23回東南アジア青年の船」管理部員として乗船。明るく、交流大好き少女!? 小田原からの2時間通勤もなんのその。

国際交流第１係・専門官

国際青年育成交流（派遣・招へい）／日・中青年親善交流／日・韓青年親善交流／アジア太平洋青年招へいの各事業を担当。派遣と招へいの両分野を扱うため、今や１年中忙しい係。**安藤補佐**は、４月に着任、おだやかな人柄は安心してお話できます。明るいノリで頼りになるのが**山本係長**。愛妻家の**柿本専門官**。優しい**笹森専門職**。振興係、第２係そして……という**国府田係員**。「第９回世界青年の船」管理部も経験し２年目、はきはきとした**荻原係員**の総勢６名で、36か国からの窓口に。

国際交流第２係

「世界青年の船」担当。現在、来年１月に出航する「第10回世界青年の船」のプログラム作りに余念がないところ。新任なれど理解度が早く様々なチャレンジを試みる**畠迫補佐**と第９回の管理部員としての経験をいかして堅実な取り組みの**長藤係長**。どこかユニークさを感じさせる**山口係員**、静かなようだけど、どこかおちゃめな**佐藤係員**と**樋山係員**、結構にぎやかかも……。第10回を迎えて、ＯＢも様々な企画を考えたいと意欲的な今年ですのでお世話になることも多いことでしょう。

国際交流第３係

「東南アジア青年の船」担当。24回を迎え、アセアン10体制によってラオス、カンボディア、ミャンマーのオブザーバー参加や国内プログラム受入れ体制も少々変わるなど、変化に対応する年。新任の**森補佐**はマンドリンの名手。意欲十分の**幕田係長**は２回目乗船。ノリの良さは天下一品の**佐藤係員**。沖縄から着任、新婚熱々の**池村係員**。英語力バツグンしとやかな**村山係員**。しっかりしているけれど、どこかおっとりした雰囲気の**斉藤係員**。

あなたの故郷と世界をつなごう！

外国青年にとって、ホームステイや各地での交流プログラムは忘れえぬ思い出となって胸に残るものです。受入れをして下さいます皆様、楽しいプログラム作りをよろしくお願いします。

今年も様々な事業の地方プログラムが予定されています。この中には、表敬訪問、施設見学、交流会、ホームステイなど様々な行事が予定されています。ご自分の地域の受入国に興味のある方、地域で国際交流をしたい方は、積極的に参加して外国青年とともに楽しい思い出を作って下さい。

〔今後の地方プログラムの予定〕

○第4回国際青年育成交流事業（招へい）（7月15日～23日）

① 栃木県〔ドミニカ、チェッコ、テュニジア〕　② 滋賀県〔ブラジル、ネパール、ウズベキスタン〕
③ 京都府〔カナダ、ジョルダン〕　④ 和歌山県〔チリ、フランス〕
⑤ 島根県〔インドネシア、ジンバブ、パラグアイ〕　⑥ 山口県〔ドイツ、メキシコ〕

○第11回日本・韓国青年親善国際交流　石川県、神戸市、北九州市（10月25日～11月3日）
○第19回日本・中国青年親善国際交流　北海道、徳島県、熊本県、大阪市（11月15日～27日）
（韓国青年約40人、中国青年約30人が各道府県を順番に訪問します。）

○第3回アジア太平洋青年招へい地方プログラム
静岡県、岐阜県、大阪府、広島県、愛媛県（10月24日～29日）
招へい国〔オーストラリア、ブルネイ、中国、インドネシア、キリバス、韓国、マレイシア、マーシャル諸島、ミクロネシア、モンゴル、ミャンマー、ニュー・ジーランド、パプア・ニューギニア、フィリピン、シンガポール、タイ、トンガ、ヴァヌアツ、ヴィエトナム（19か国）〕

○第24回「東南アジア青年の船」の地方プログラム（11月14日～16日）
宮城県、群馬県、静岡県、愛知県、和歌山県、香川県、山口県、大阪市
（日本参加青年と各国外国参加青年の混合グループで各県市を訪問します。）

※「第10回世界青年の船」は、茨城県、兵庫県、香川県、佐賀県、長崎県、広島市を訪問。
（国名等の詳細は、次号にてお知らせします。）

第13回青少年国際理解セミナー

「21世紀に向けて日韓の相互理解をどう進めるか」
～青少年の役割、青少年に期待するもの～

本年度で第2回の「日本と韓国の友好増進と相互理解のための交流」において招へいする韓国の代表者の方々と、現在の日本及び韓国が抱える諸問題について語り合う場を設け、今後の発展的日韓関係を築くことを目的としたものです。始めて来日する韓国の青年に、少しでも日本の姿を伝えるとともに、彼らから韓国の実状を知る良き機会と考えますので、多くの方の参加をお待ちしています。

日　　時：1997年7月26日（土）　13:00～17:00
会　　場：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際会議室
参 加 費：無　料

＊全体会は同時通訳、分科会には逐次通訳が入りますので、韓国語ができない方でもご心配なく。

第14回青少年国際理解セミナー

「第9回世界青年の船」帰国報告会

平成8年度の「第9回世界青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげて下さい。

総務庁青少年対策本部が行う青少年国際交流事業についての全体的説明コーナーもありますので、他の事業に興味のある方にも声をかけてあげて下さい。

日　　時：1997年7月27日（日）　12:30～16:30
会　　場：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際会議室
参 加 費：無　料

主な内容：船内及びニュー・ジーランド、チリ、コスタ・リカ、メキシコでの活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムに各国のお茶やお菓子を楽しみながら参加していただきます。

申込み先：㈶青少年国際交流推進センターの「セミナー係」までFAX又は葉書にてお申込み下さい。
〒103 東京都中央区日本橋人形町2－35－14　東京海苔会館6F
㈶青少年国際交流推進センター　セミナー係
電話　03－3249－0767　　FAX　03－3639－2436

ブロック大会（海外派遣青年のつどい）の開催

ブロック名	開催県	開催日程	所属都道府県名
北海道・東北ブロック	宮城県	9／7～8	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県 山形県、福島県
関東ブロック	茨城県	平成10年2月予定	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県 東京都、神奈川県、山梨県
北信越ブロック	新潟県	10／25～26	新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県
中部ブロック	静岡県	8／2～3	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿ブロック	奈良県	7／5～6	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県 和歌山県
中国ブロック	広島県	8／23～24	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国ブロック	愛媛県	8／30～31	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州ブロック	大分県	11／1～2	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県 宮崎県、鹿児島県、沖縄県

＊訂正とお詫び――前号の記載で広島大会の日程とブロック名が違っておりましたので、お詫びとともに訂正させていただきます。

編集後記

いよいよ平成9年度の総務庁青年国際交流交流事業の参加青年の選考が終了し、新しい顔ぶれが揃う季節となりました。各事業で、今年も数々のドラマが生まれることでしょう。合格された皆様おめでとうございます。与えられたチャンスを大切にして多くのことをつかんできて下さい。

＊本誌の年間講読をご希望の方は、㈶青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 7月号 Vol.17 1997年7月1日発行（隔月発行）

編　集：マクロコズム編集委員会
発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター
〒103 東京都中央区日本橋人形町2－35－14
TEL 03－3249－0767
FAX 03－3639－2436
e-mail LDP 04056 @niftyserve. or. jp

編集協力：総務庁青少年対策本部
日本青年国際交流機構
定　価：198円（本体189円）
印刷所：株式会社　絢文社
TEL 03－3959－3960

「第９回世界青年の船」課題別視察

～1997年１月13日（月）～ （本文P.8）

▲ ３度目の訪問で担当者はすっかりお馴染みに
クッキーの袋詰め作業を手伝いました

世田谷区立世田谷福祉作業所

東京ガス㈱　ガスの科学館

エネルギーの大切さを実感できます
▼ マジックみたいですね

新宿区立落合第二小学校

◀ ２年前にも世界青年の船の青年がお世話になりました。みんなで仲良く給食を

全日本空輸㈱　機体メンテナンスセンター

▼ 整備士になった気分で見学

東京都中央卸売市場

◀ 市場の活気は、どこの国も同じ。親切に案内していただきました

「第23回東南アジア青年の船」報告会

3月9日（日）の午後12時30分より、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「第23回東南アジア青年の船」報告会を第11回青少年国際理解セミナーとして開催しました。

総務庁青年国際交流事業の募集時期でもありましたので、募集説明会も兼ねた形で行うことができました。

第23回の参加青年は、全国から41名（45名中）が大集合し精一杯の頑張りを見せてくれました。

▲ 各自が撮った写真を様々な分野別に説明を加えて展示しました

スライドを使って具体的に活動説明 ▶

分科会

国別に分かれて

◀ 最後の全体懇談会は、民族衣装の参加青年がリードしてアセアンの歌を一緒に歌ったり踊ったりの体験型に組み立てました